

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「春のうた」 教材名「春のうた」

2 単元の目標

詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（〔知識及び技能〕(1)ク）

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。（C(1)エ）

春の情景を表す詩の言葉から、想像した様子を音読で表す学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）	①春の情景を表す詩の言葉から、想像した様子を音読で表す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

春の情景を表す詩の言葉から、想像した様子を音読で表す。この教材では、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

教師は教科書で語のまとまりを示し、響きと意味を確かめる。声を出しにくい児童は間や速さを印で選び、教師の音読で確かめる。想定する難しさは、速さや声量だけを変え、言葉の意味や思い浮かべた様子と結び付けない。評価では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しているかを、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。詩を声に出し、響きや繰り返してから思い浮かべた様子を話す。言葉のまとまりや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子と比べて読み方を選ぶ。選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。(C(1)エ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「どの響きや区切りにすると、春の様子が伝わりますか」 【めあて】春の情景を表す詩の言葉から、想像した様子を音読で表す。 〈予想される児童の反応〉 ・繰り返す言葉の響きが印象に残る。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「どの響きや区切りにすると、春の様子が伝わりますか」 詩を声に出し、響きや繰り返してから思い浮かべた様子を話す。言葉のまとまりや間を変えて音読し、聞き手が感じた様子と比べて読み方を選ぶ。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係性を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・繰り返す言葉の響きが印象に残る。 ・間を置くところを変えると様子が違って聞こえる。	教師は教科書で語のまとまりを示し、響きと意味を確かめる。声を出しにくい児童は間や速さを印で選び、教師の音読で確かめる。 想定する難しさ：速さや声量だけを変え、言葉の意味や思い浮かべた様子と結び付けない。 評価では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しているかを、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・間を置くところを変えると様子が違って聞こえる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「どの響きや区切りにすると、春の様子が伝わりますか」。中央は、印象に残った言葉と音読の工夫、その理由の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

